

月報

神戸市感染症情報

<報告> 病原体検出状況 2011年(平成23年)

15巻1号 (No. 159)

平成24年1月発行

神戸市感染症情報対策委員会

事務局 神戸市保健所予防衛生課

〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1

Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

<報告> 病原体検出状況 2011年(平成23年)

神戸市では、通常の定点サーベイランスに加えて独自に「病院検査室定点」を設置しており、神戸市内の13病院から、検査室において検査した検体について、検体種別ごとの検査件数と検出した病原体に関する情報を毎月ご報告いただいている。今号では、昨年1年間の病原体検出状況について報告する(数値の詳細は次ページからの「病原菌検出状況報告(病院検査室定点)2011年(平成23年)」参照)。

昨年1年間の報告数は156件(13機関×12ヶ月)で、報告率100%であった。報告率は、2008年分以降、100%が続いている。

検診機関の検便(健康診断としての検便)を除く10,485件の便検体から1,183件(検出率11.3%)の病原菌が検出された。検出菌種は多い順にカンピロバクター(54.0%)、黄色ブドウ球菌(25.7%)、サルモネラ(7.34%)、大腸菌(4.6%)であった。なお、2011年から、それまで市販の病原大腸菌免疫血清で凝集がみられた場合に報告されていた[*Escherichia coli*, 病原大腸菌血清型]の項目を削除したため、2010年までとは若干異なる集計結果となっている。ウイルスは、1,637件中275件(検出率16.8%)から、ロタウイルス、アデノウイルス、ノロウイルスが検出された。原虫は検出されなかった。

穿刺液からは、3,103件中451件(検出率14.5%)が検出され、黄色ブドウ球菌28.2%、大腸菌20.6%、嫌気性菌17.1%であった。

髄液からは、1,044件中6件(検出率0.6%)が検出され、内訳は黄色ブドウ球菌1件、大腸菌1件、肺炎球菌2件、B群レンサ球菌2件で

あった。過去5年間(2006年以降)、毎年数件のインフルエンザ菌の検出が報告されていたが、2011年にはゼロであった。

咽頭及び鼻咽頭からは、13,313件中1,264件(検出率9.5%)が検出されたが、インフルエンザ菌(53.6%)、肺炎球菌(39.0%)、A群レンサ球菌(7.4%)の3種類のみであった。

尿からは、15,589件中6,988件が検出された(検出率44.8%)。大腸菌(40.7%)と腸球菌属(20.4%)の2種で60%以上を占めた。

血液からは、27,594件中2,231件が検出された(検出率8.1%)。ブドウ球菌(コアグラール陰性)(35.9%)、大腸菌(29.8%)、黄色ブドウ球菌(19.6%)の3種で85%以上を占めた。

喀痰、気管吸引液および下気道からは、20,712件中6,219件が検出された(検出率30.0%)。そのうち、40.5%が黄色ブドウ球菌、27.0%が緑膿菌であった。

尿道または子宮頸管擦過(分泌物)からは、6,652件中995件が検出された(検出率15.0%)。ほとんどが、カンジダ(56.4%)あるいはB群レンサ球菌(39.1%)であった。

検出された黄色ブドウ球菌のうち、MRSAの割合は67.4%であった。昨年の集計では、2002年以降で初めてMRSAが70%を下回った(69.5%)が、今年はさらに低い値となった。

患者接触者等の検便を含む検診機関の検便114,682件からは、サルモネラ26件、腸管出血性大腸菌3件の合計29件の病原菌が検出された。

神戸市環境保健研究所企画情報部 森 愛